

◎共生・協働推進室(県庁市町村課内) ☎099-286-2241
 ◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) ☎099-221-6605
 関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。



▲「図鑑奄美の野鳥」(1996発刊)。20周年の今年は改訂版を発刊する予定。

という目標を立て活動するようになった。趣味で始めた活動はしだいに専門化していき、また自然保護の活動を行うことで、野鳥の会の名は知られていった。「アマミノクロウサギなどの希少生物が多いところに林道を通すという話が持ち上がった

奄美大島には、アマミノクロウサギをはじめ世界でもここで見られない貴重な野生生物が多く生息している。ルリカケスやオオトラツグミ、アマミヤマシギなどの野鳥もその例だ。
 NPO法人奄美野鳥の会の会長高美喜男さんが、野鳥に興味を持ったのは今から20年ほど前。知り合いに誘われて日本野鳥の会の探鳥会に参加したのがきっかけだ。「朝鮮半島から渡ってきたアカハダカの大群がものすごい勢いで飛んでいく姿を見て興奮と感動を覚えたんです」。それを機に当時奄美では珍しかったバードウォッチングを始めた。昭和60年には、情報交換を目的に仲間6人で奄美野鳥の会を結成し、「10周年までには奄美の野鳥図鑑をつくらう」という目標を立てた。

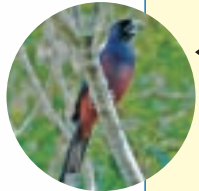
楽しみながら自然との共生を

「反対というだけでもなかったんです。自然も大事ですが、島の人の生活が便利になることも大事。その2つをうまく調和させていくことが重要だと思っています。少し前まで、地元の人でも奄美の自然の貴重さを分かっていなくて、天然記念物のルリカケスでさえ『いもを食べたりして迷惑だ』と思っていたんです。だから、その貴重さを説明することが必要だと思っていました。でも、ここ10年くらいの間に、自然保護に対する意識はだいぶ変わってきました。特に県が『奄美群島自然共生プラン』を策定してからは『自然と共生しながら地域づくりを』という気運が高まっていると思いますよ」と話す。

平成15年にはNPO法人となり、現在会員は400人を超えている。主な活動は大きく2つ。ひとつは、設立当初から毎月1回続けている探鳥会。毎回20人ほどが参加し、野鳥や自然の観察を楽しんでいる。もうひとつは、希少生物の調査。絶滅危惧種のオオトラツグミは深い森に棲んでいるため詳しい生態が分かっていない。「保



◀オオトラツグミ



◀ルリカケス

奄美市 NPO法人

《問い合わせ》096967(57)75963



▲オオトラツグミの羽数調査。声を聞いた地点を記録していく。



▲月1回開催する探鳥会は初心者も気軽に楽しめる。

護のためには実態を知ることが必要」と、さえずりを始める3月に独自の羽数調査を行っている。調査は夜明け前にボランティア調査員約100人が林道に点々と立ち、「キュロン」という声が聞こえたら記録していくという方法で行われ、昨年は251羽が確認された。参加者からは「初めてオオトラツグミの美しい声が聞けて感激した」という感想が多く寄せられるという。運がよければアマミノクロウサギに会えることもあるそうだ。
 このほかにも、林野庁や環境省から委託を受け、アマミヤマシギやアマミノクロウサギの生態調査を行ったり、東京大学や上野動物園と共同でルリカケスの繁殖調査を行ったりしている。高さんはこれらの調査のため毎日早朝から森に入るが、それが日課であり楽しみでもあるという。「鳥を見、声を聞くのは楽しいもの。だからこそ森を守ろうという気持ちがかかります。自然と人との共生のためには、まず人が自然の素晴らしさを、理屈ではなく五感で感じる大切だと思います。これからは奄美の自然を楽しみながら守る活動を広げていきたいと思っています」と高さんは笑顔で語った。



会長 高さん

オオトラツグミの羽数調査や探鳥会にみなさんも参加してみませんか。